

【人材の養成に関する目的】

<p>■経済学部 経済学の知見に基づき、現代の複雑な社会問題を正しく理解するための分析力と、それらを意欲的に解決するための実践力とを備え、持続可能な経済社会の構築に資する人材を養成する。</p>	<p>■経済数理学科 数理モデルによる経済分析やデータの統計処理を駆使して、経済現象や経済問題の本質を的確に理解し、問題解決に導く効果的な方法を社会に対して提案できる人材を養成する。</p>
---	---

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

経済学部経済数理学科は、大学全体の学位授与方針に基づき、「専門分野の知識・技能の修得」「教養の修得」「課題の発見と解決」「表現力、発信力」「多様な人々との協働」「自発性、積極性」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学士（経済学）の学位を授与します。

<p>【専門分野の知識・技能】 （DP1-1）経済数理学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。 （DP1-2）ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的な概念及び理論を理解している。 （DP1-3）計量経済学、統計学の基礎的な手法を修得し、経済現象を定量的に把握することができる。 （DP1-4）経済問題、経済政策に関して自ら仮説を立て、それを検証することができる。</p>	<p>【表現力、発信力】 （DP4-1）自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ明瞭に発信できる豊かな表現力を身に付けている。 （DP4-2）経済のしくみや経済問題の背景等に関して、一般の人にわかりやすく説明できる。 （DP4-3）経済現象や経済問題に関する理論的、実証的な分析を、わかりやすく文章や図表にまとめることができる。</p>
<p>【教養の修得】（広い視野での思考・判断） （DP2-1）人文科学、社会科学、自然科学およびこれらにまたがる学際的な文野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる。 （DP2-2）経済理論、経済制度だけでなく、人間、社会、歴史等も踏まえた総合的な考察を行うことによって、経済政策の在り方について幅広い議論を展開することができる。</p>	<p>【多様な人々との協働】（コミュニケーション+協調性+チームワーク） （DP5-1）多様な人々と協働して課題解決に取り組んだ経験を通じて、多様な価値観を受容し、協調性やコミュニケーション力を身に付け、チームの中で自分の役割を的確に果たすことができる。</p>
<p>【課題の発見と解決】（情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考） （DP3-1）課題の本質を発見するために必要な情報（文献、統計等を含む）を調査収集し、それらを的確に解釈・分析し、課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身に付けている。 （DP3-2）新聞、書籍・雑誌、テレビ、インターネット等の多様なメディアにおいて、取得できる知見やデータの所在、種類等を熟知し、必要ときに必要な情報入手することができる。 （DP3-3）経済問題の理解に必要なデータを調査収集し、それを定量的に分析し、結果に関して経済理論に立脚した的確な解釈を行うことができるようになっていく。</p>	<p>【自発性、積極性】 （DP6-1）学びで獲得した知識・技能を、様々な活動（正課・正課外や学内・学外を問わず）において自発的・積極的に活用した経験を有している。</p>

科目の例：（必ず単位修得をしなければならない科目）

（1回は履修登録を行い受講する必要があるが、単位未修得だった場合の再履修は任意）

※ 全学共通科目については、「全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）：学修・教育目標（科目グループ別カリキュラム・フロー）」を参照。

科目の記載例：

科目グループ	主なDP	科目グループの学修・教育目標	1年次 担当科目・単位数		2年次 担当科目・単位数		3年次 担当科目・単位数		4年次 担当科目・単位数	
			第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム
ゼミナール科目	必修	1-1 3-1 4-1 5-1	基礎ゼミナール②				上級ゼミナールⅠ②	上級ゼミナールⅡ②	卒業研究④	
	選択	1-1 3-1 3-3 4-1 4-3 5-1			プログラミング演習A② プログラミング演習B② 計量経済学ワークショップ② 経済理論ワークショップ② 経済学特殊演習② 経済数理論特殊演習②		経済学ワークショップ④			
基盤科目	基盤Ⅰ	1-1	ミクロ経済学Ⅰ② マクロ経済学Ⅰ② 計量経済学Ⅰ② 経済数学Ⅰ②	ミクロ経済学Ⅱ② マクロ経済学Ⅱ② 計量経済学Ⅱ② ミクロ経済学Ⅱ②	ミクロ経済学Ⅲ② マクロ経済学Ⅲ② 計量経済学Ⅲ② 経済数学Ⅲ②					
	基盤Ⅱ	1-1 3-1 3-3			ゲーム理論② 応用計量経済学② 国際マクロ経済学② 行動経済学② 情報の経済学② 経済発展論② 社会経済地理学② 人口学② 社会学② 企業財務② 基盤特殊講義②					
総合科目	制度・歴史	2-1 2-2	経済史の基礎②		現代日本経済② 数量経済史② 経済学史② 社会思想史②					
	社会理解	2-1 2-2			労働法② 経済実務講義② 社会理解実践講義②					

科目グループ	主なDP	科目グループの学修・教育目標
--------	------	----------------

応用発展科目	応用科目	1-1	経済学の基礎理論を具体的な対象（企業、産業、金融、公共部門、国際経済など）にどのように応用することができ、それが現象の理解や課題解決につなげられるのかを学びます。
	発展科目	1-1 3-1 3-3	

広域基礎科目	2-1 2-2	日本史・外国史・地理学・地誌・政治学など、主として中学・高校の教員をめざす学生に必要な教科の素養を高めます。
--------	------------	--

自己設計科目	2.5.6	各科目グループ、全学共通科目の規定の単位数を超えて修得した単位、経済数理学科科目、他学部科目の履修や、他大学との単位互換制度で修得した単位を卒業のための単位として認めるための区分です。学生自身の興味や将来の目標などに応じて、長期的な履修計画を立てながら有効に活用できます。
--------	-------	--

1年次 配当科目・単位数	
第1ターム	第2ターム

2年次 配当科目・単位数	
第3ターム	第4ターム

3年次 配当科目・単位数	
第5ターム	第6ターム

4年次 配当科目・単位数	
第7ターム	第8ターム

産業組織論A② 産業組織論B② 組織の経済学② 国際経済学② 労働経済学② ファイナンスA② ファイナンスB② 金融論A② 金融論B②  
 国際金融論② コーポレート・ファイナンス② 環境経済学A② 環境経済学B② 都市経済学② 開発経済学② 財政学A② 財政学B② 公共経済学②  
 教育経済学② 社会保障論A② 社会保障論B② 医療経済学② 法と経済学② 企業マネジメント特殊講義② ファイナンス特殊講義②  
 サステナビリティ特殊講義② 公共政策デザイン特殊講義② 経済数理特殊講義②

Advanced Microeconomics I ②	Advanced Microeconomics II ②
Advanced Macroeconomics I ②	Advanced Macroeconomics II ②
Advanced Econometrics I ②	Advanced Econometrics II ②

日本史概論 I ② 日本史概論 II ② 世界史概論 I ② 世界史概論 II ② 人文地理学② 自然地理学② 地誌学② 現代の政治学②

全学共通科目、現代経済学科開設科目のうち上記各科目区分から選択した科目、他学科科目、他学部科目、単位互換科目